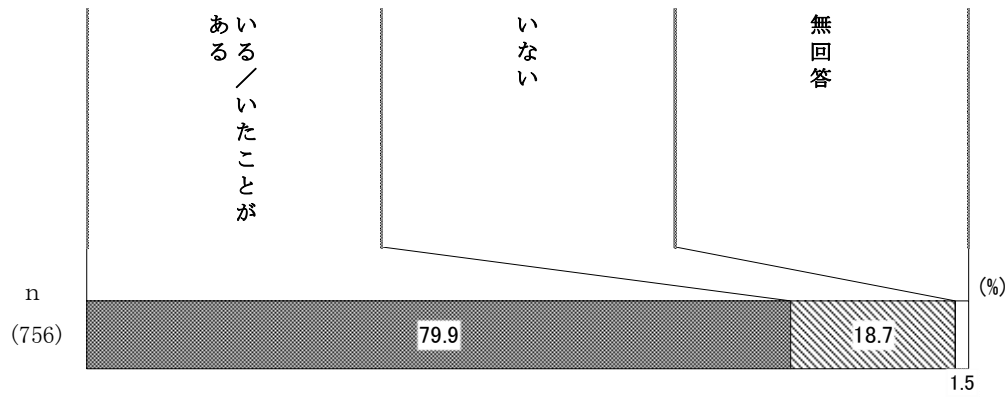


## 6 DVについて

### (1) 配偶者や同棲相手の有無〔新規〕

問8 あなたは、これまでに配偶者や同棲相手がありますか。あるいは、これまでに、いたことがありますか。該当する番号ひとつに○をつけてください。

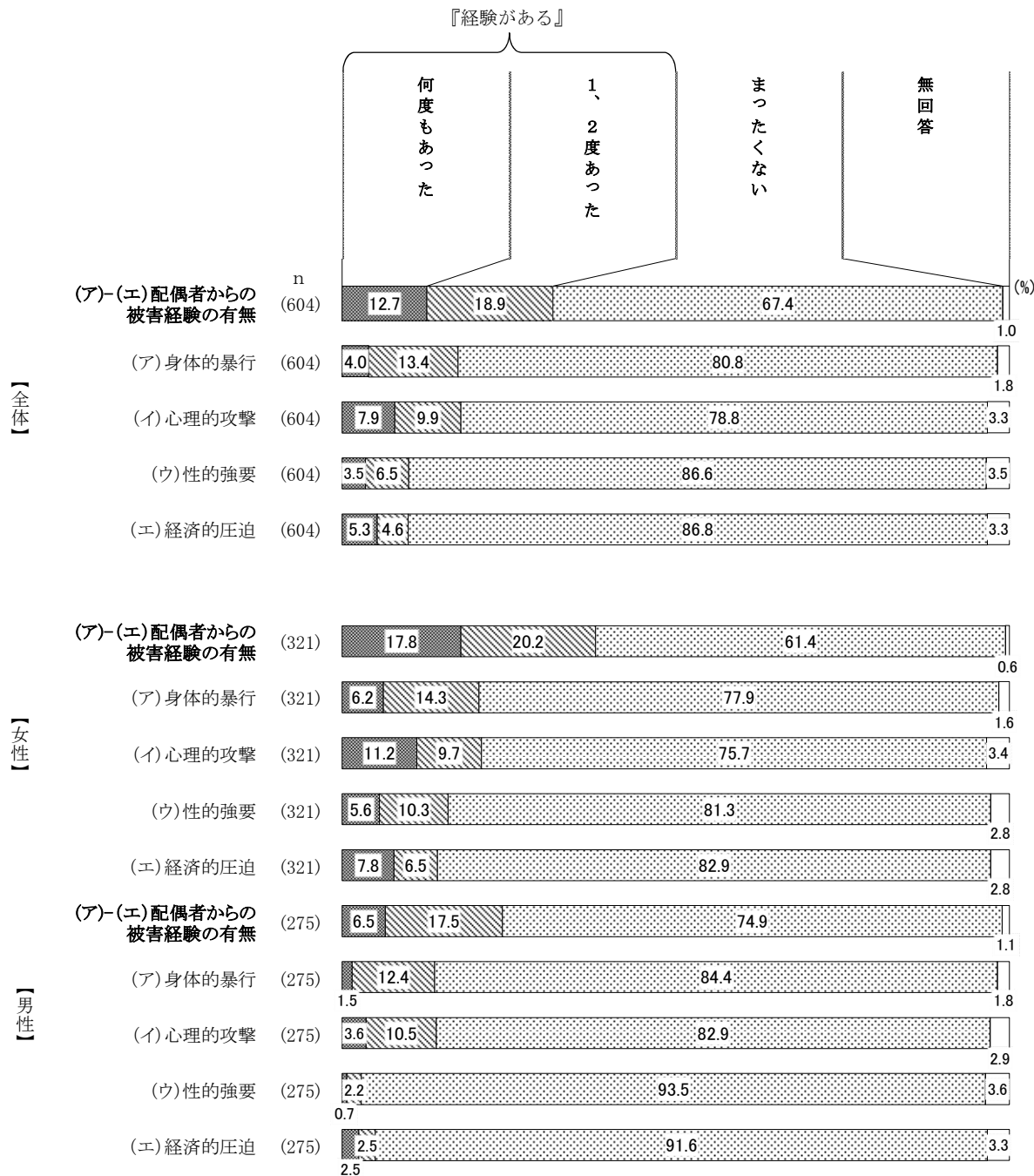


配偶者や同棲相手の有無は、「いる／いたことがある」が79.9%、「いない」が18.7%となっている。

(2) DVの被害経験〔新規〕

※問8で「1 いる／いたことがある」と回答された方のみお答えください。

問9 (1) あなたはこれまでに、あなたの配偶者などから(ア)～(エ)のような行為(DV)をされた経験がありますか。



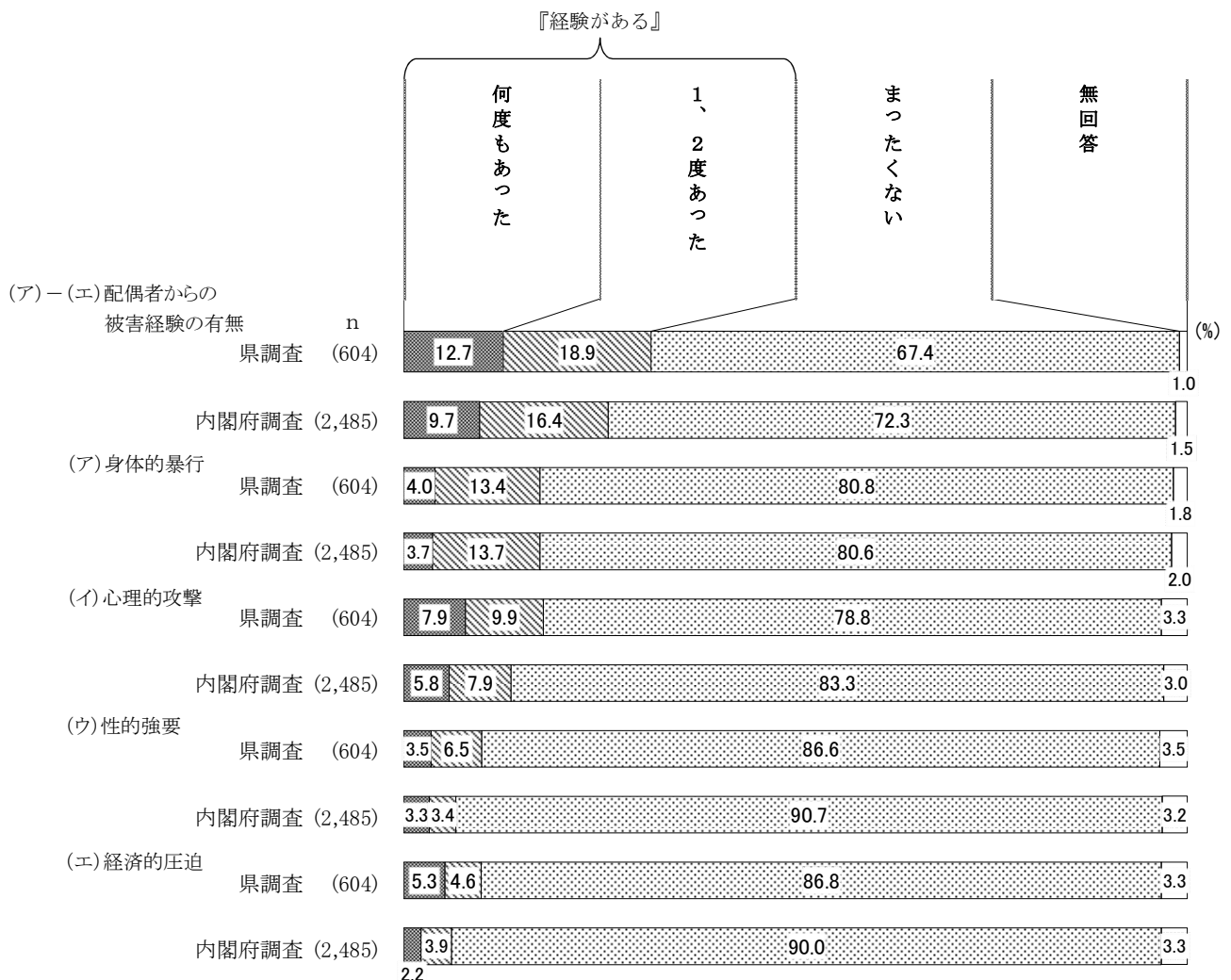
DVの被害経験の全体”(ア)～(エ) 配偶者からの被害経験の有無”は、『経験がある』が31.6%、「まったくない」が67.4%となっている。

性別でみると、”(ア)～(エ) 配偶者からの被害経験の有無”、各行為全てで『経験がある』は女性が男性よりも高くなっており、”(ア)～(エ) 配偶者からの被害経験の有無”を比較すると、女性が14.0ポイント高くなっている。

- (ア) 身体的暴行：なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど
- (イ) 心理的攻撃：人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など
- (ウ) 性的強要：いやがっているのに、性的な行為を強要される、見たくないのにポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど
- (エ) 経済的圧迫：生活費を渡されない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど

【内閣府調査（平成 29 年）との比較】

内閣府調査と比較すると、『経験がある』は“(ア) - (エ) 配偶者からの被害経験の有無”で県調査が内閣府調査よりも 5.5 ポイント高くなっている。各行為をみると、“(イ) 心理的攻撃”は県調査が内閣府調査よりも 4.1 ポイント、“(ウ) 性的強要”も県調査が 3.3 ポイント、“(エ) 経済的圧迫”も県調査が 3.8 ポイント高くなっている。



※内閣府調査：平成 29 年度男女間における暴力に関する調査

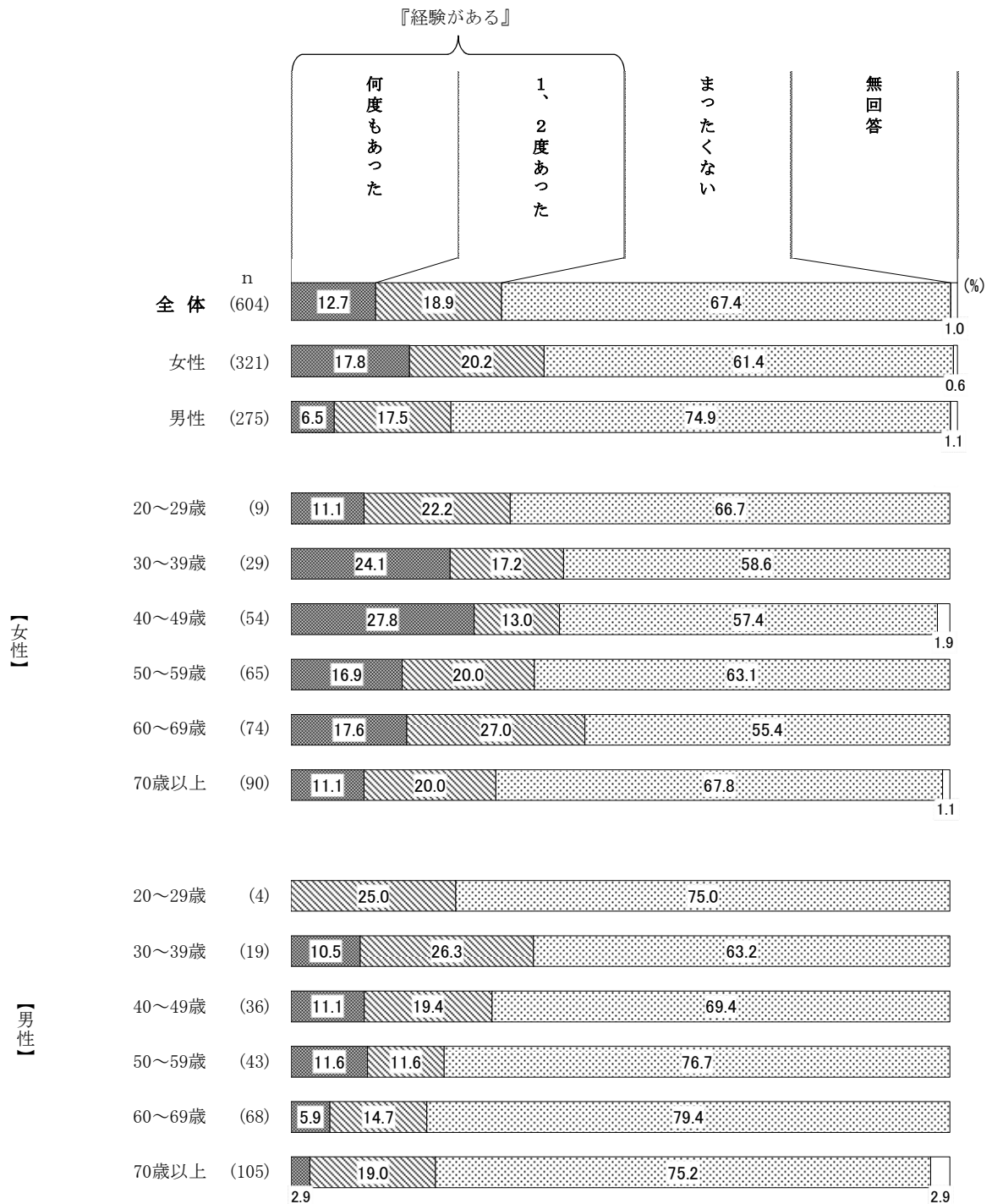
調査の結果／6 DVについて

(2) DVの被害経験

(ア) - (エ) 配偶者からの被害経験の有無

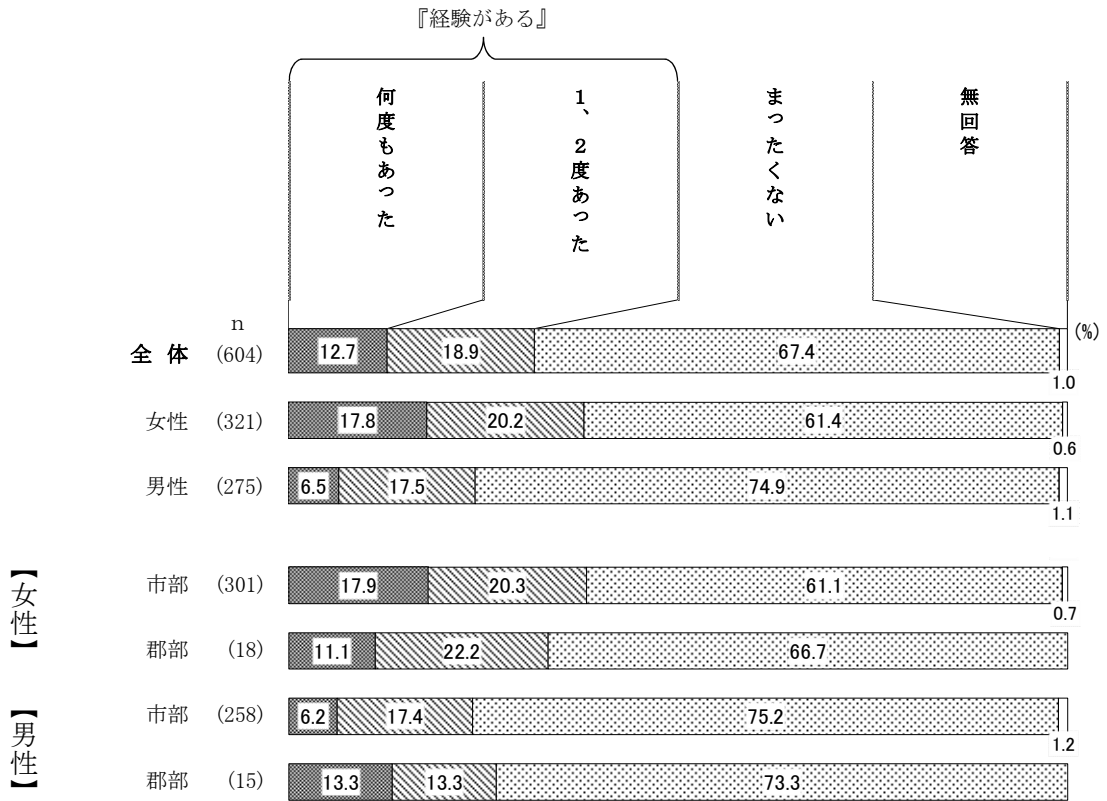
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、『経験がある』は全ての年代で女性が男性よりも高くなっており、女性30～39歳、40～49歳、60～69歳で4割以上と高くなっている。



【性・地域（市部郡部）別】

性・地域（市部郡部）別でみると、『経験がある』は市部の女性で約4割と高く、市部の男性と比較すると、市部の女性が14.6ポイント高くなっている。



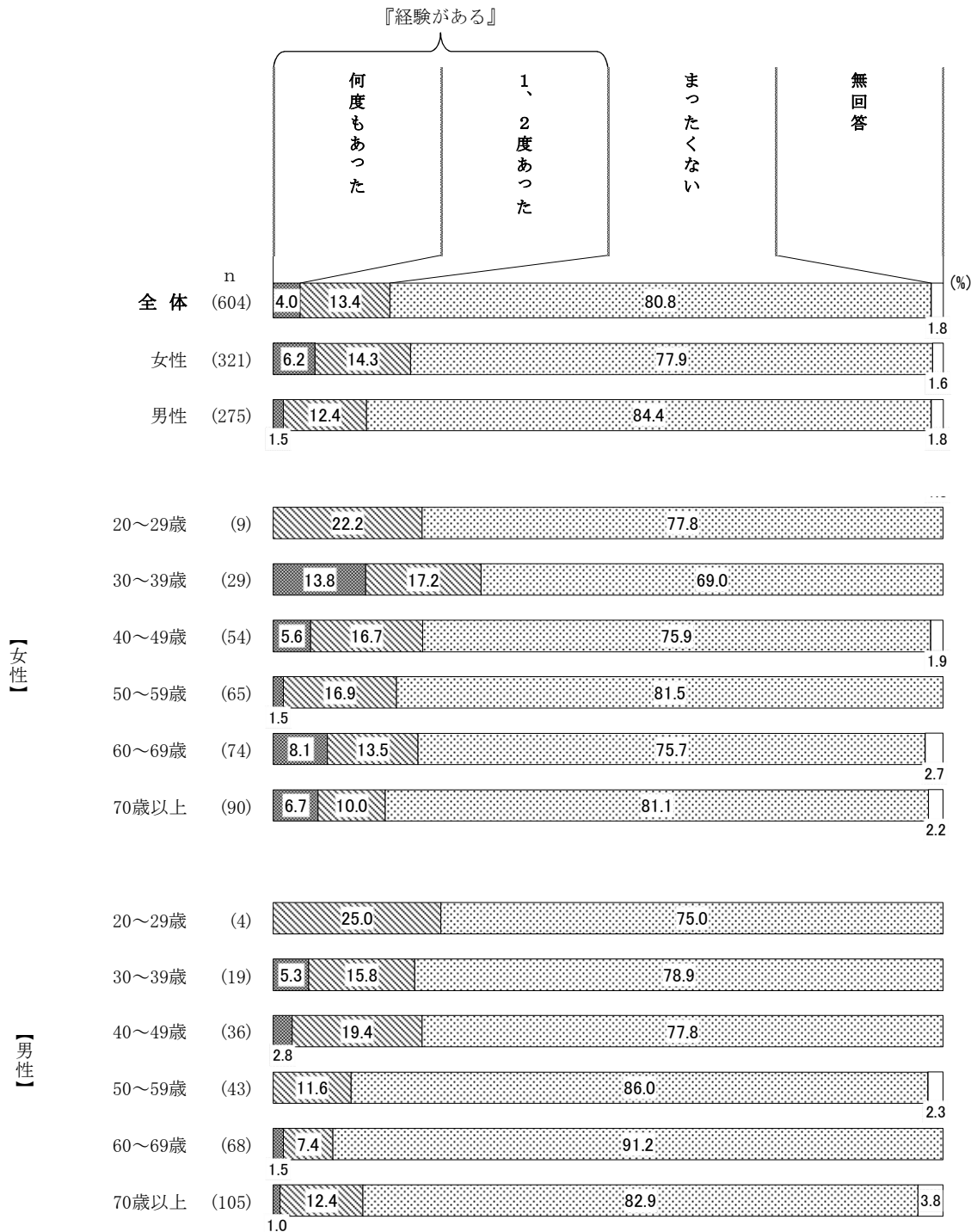
調査の結果／6 DVについて

(2) DVの被害経験

(ア) 身体的暴行

【性・年齢別】

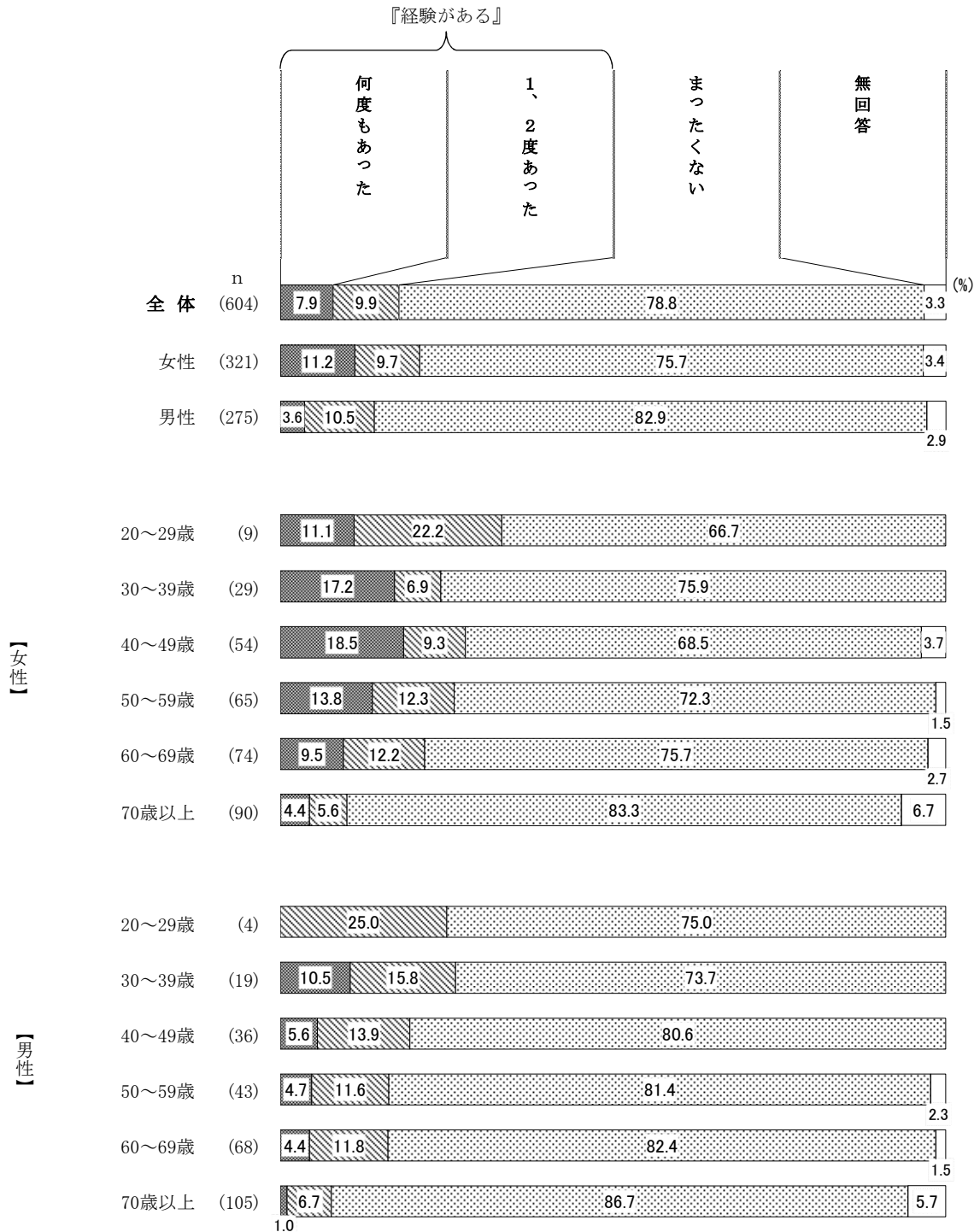
性・年齢別で見ると、『経験がある』は男女とも年齢が低いほど高い傾向にあり、女性30～39歳で3割を超えて高くなっている。



(イ) 心理的攻撃

【性・年齢別】

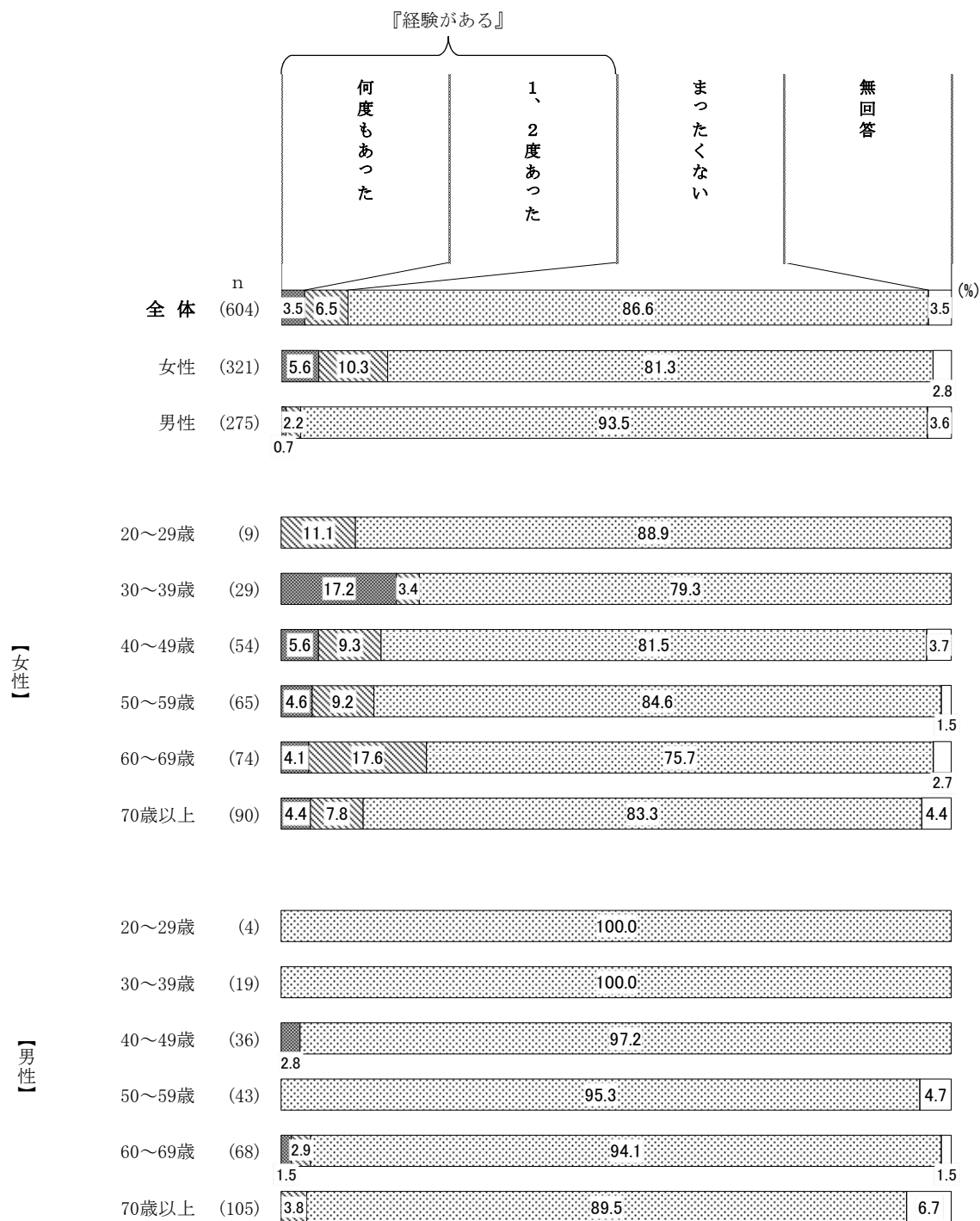
性・年齢別で見ると、『経験がある』は女性で2割以上となっている年代が多く、女性40～49歳で約3割となっている。



(ウ) 性的強要

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、『経験がある』は男性の全ての年代で5.0%以下となっている。一方、女性は全ての年代で10.0%以上となっており、女性60～69歳で2割を超えている。

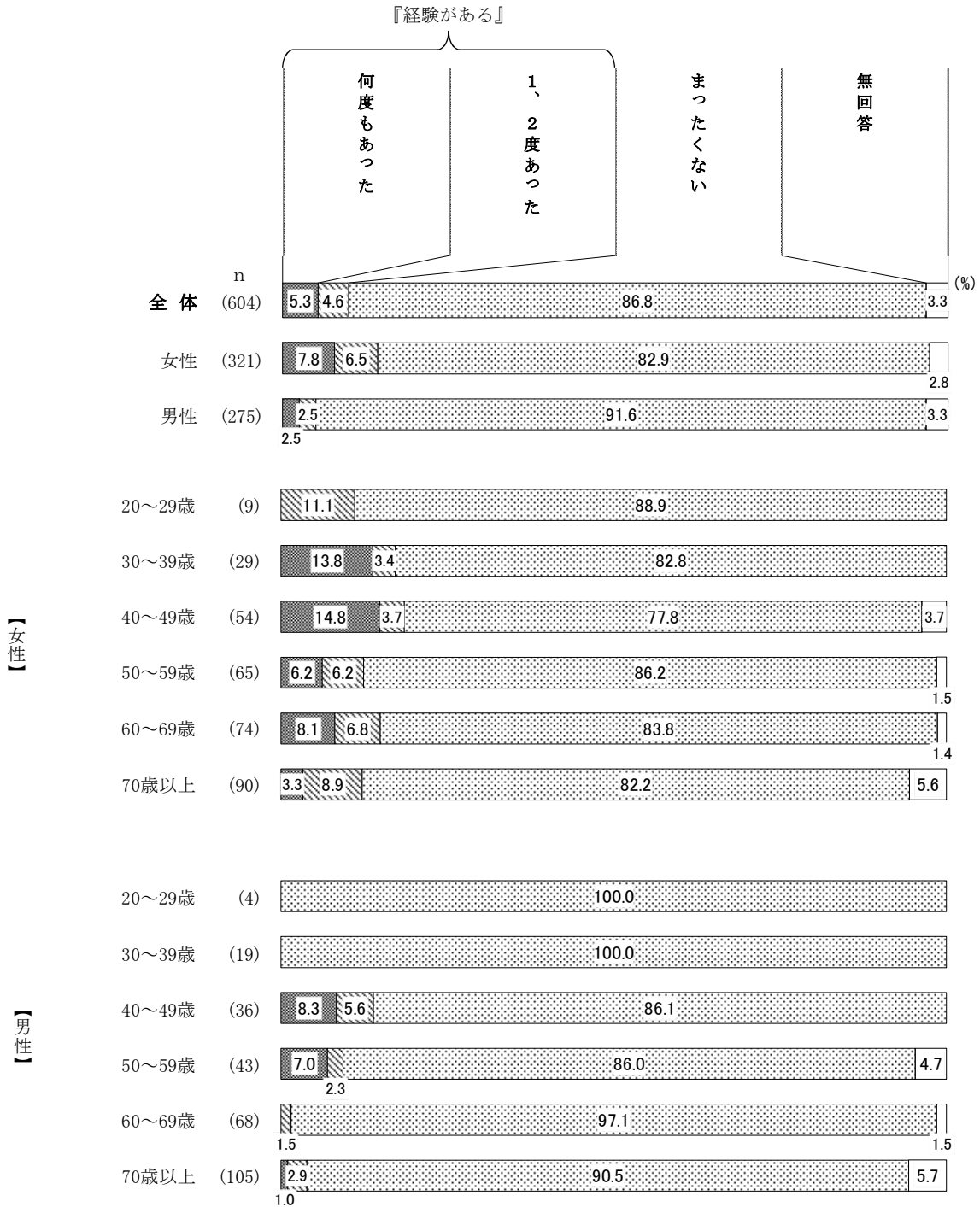




(エ) 経済的圧迫

【性・年齢別】

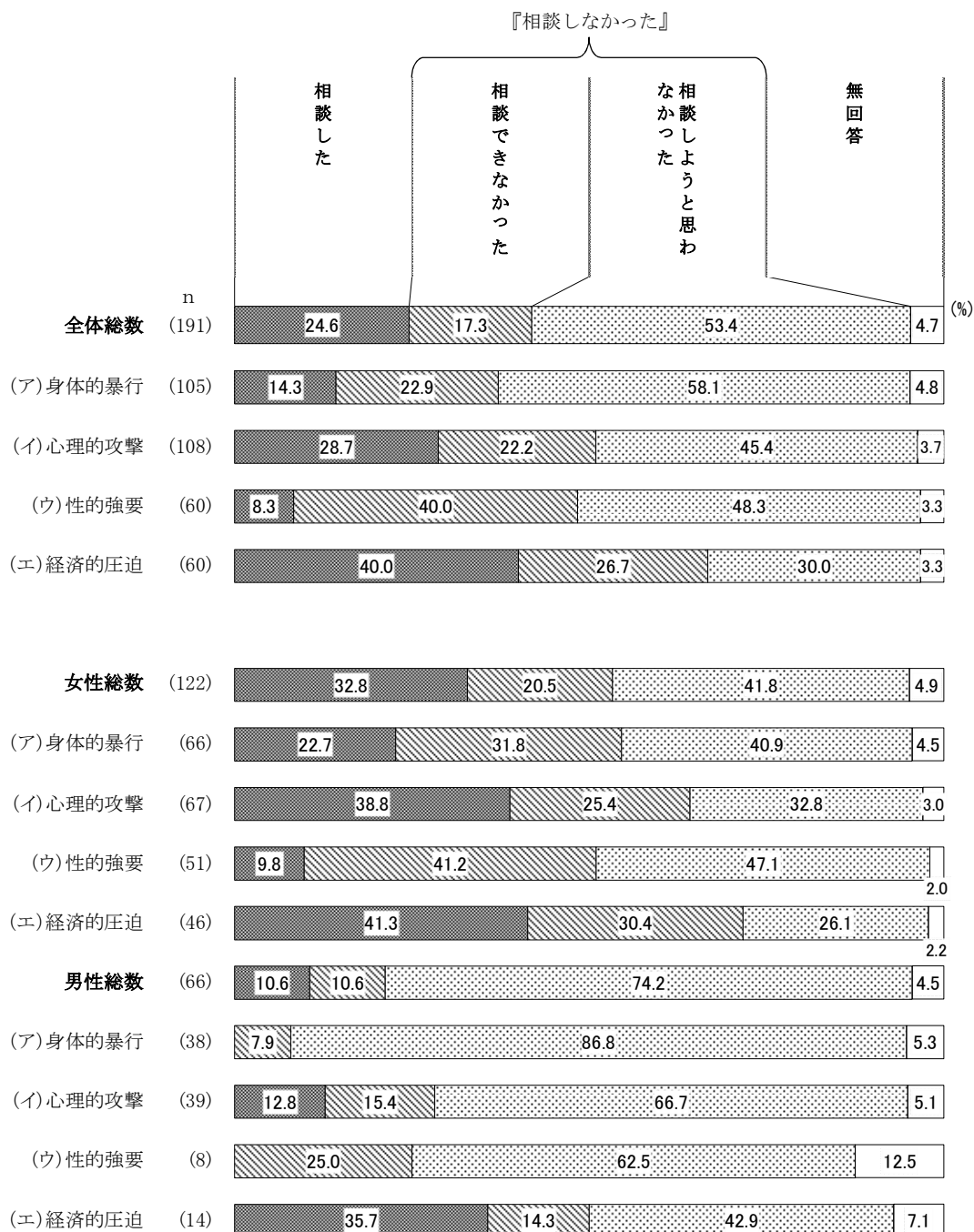
性・年齢別で見ると、『経験がある』は女性 30～39 歳、40～49 歳で約 2 割、女性 60～69 歳、男性 40～49 歳で 1 割半ばとなっている。



(3) DV被害の相談有無〔新規〕

※問8で「1 いる／いたことがある」と回答された方のみお答えください。

(2) また、以下の表の「(1) 経験」の(ア)～(エ)のいずれかで「1、2度あった」、「何度もあった」と回答された方は、その行為についてだれかに相談しましたか。以下の表の「(2) 相談」のそれぞれについて、該当する番号ひとつに○をつけてください。

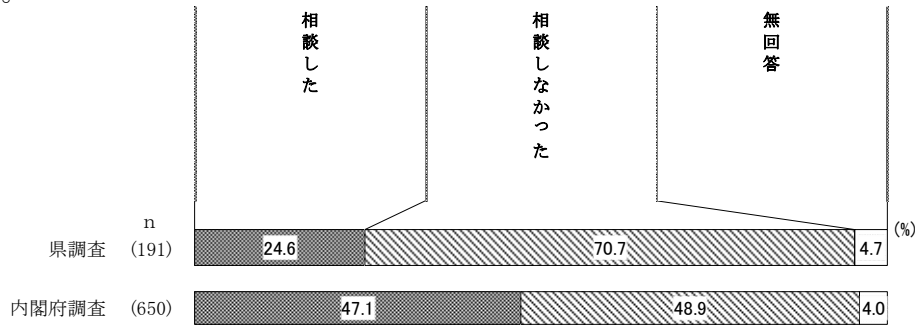


DV被害の相談有無の全体総数は、「相談した」が24.6%、「相談できなかった」が17.3%、「相談しようと思わなかった」が53.4%となっている。

性別でみると、総数で「相談した」は女性が男性よりも22.2ポイント高くなっている。一方、『相談しなかった』は総数、各行為全てで男性が女性よりも高くなっており、総数を比較すると、男性が22.5ポイント高く、“(ア) 身体的暴行”では男性が22.0ポイント高くなっている。

【内閣府調査（平成 29 年）との比較≪（ア）－（エ）総数≫】

内閣府調査と比較すると、「相談しなかった」は県調査が内閣府調査よりも 21.8 ポイント高くなっている。



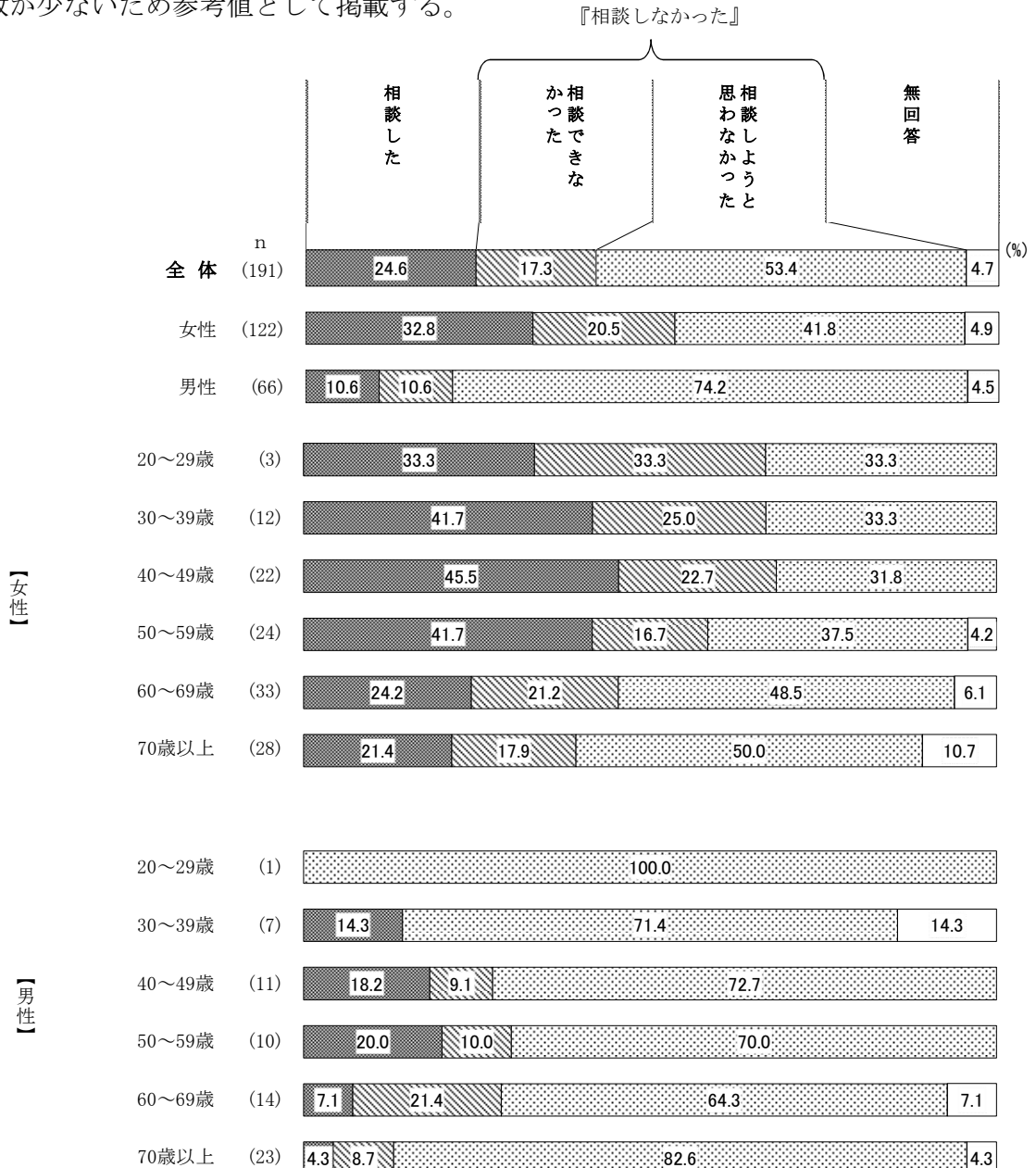
※内閣府調査：平成 29 年度男女間における暴力に関する調査

※県調査「相談しなかった」：「相談できなかった」、「相談しようと思わなかった」の合計

（ア）－（エ）総数

【性・年齢別】

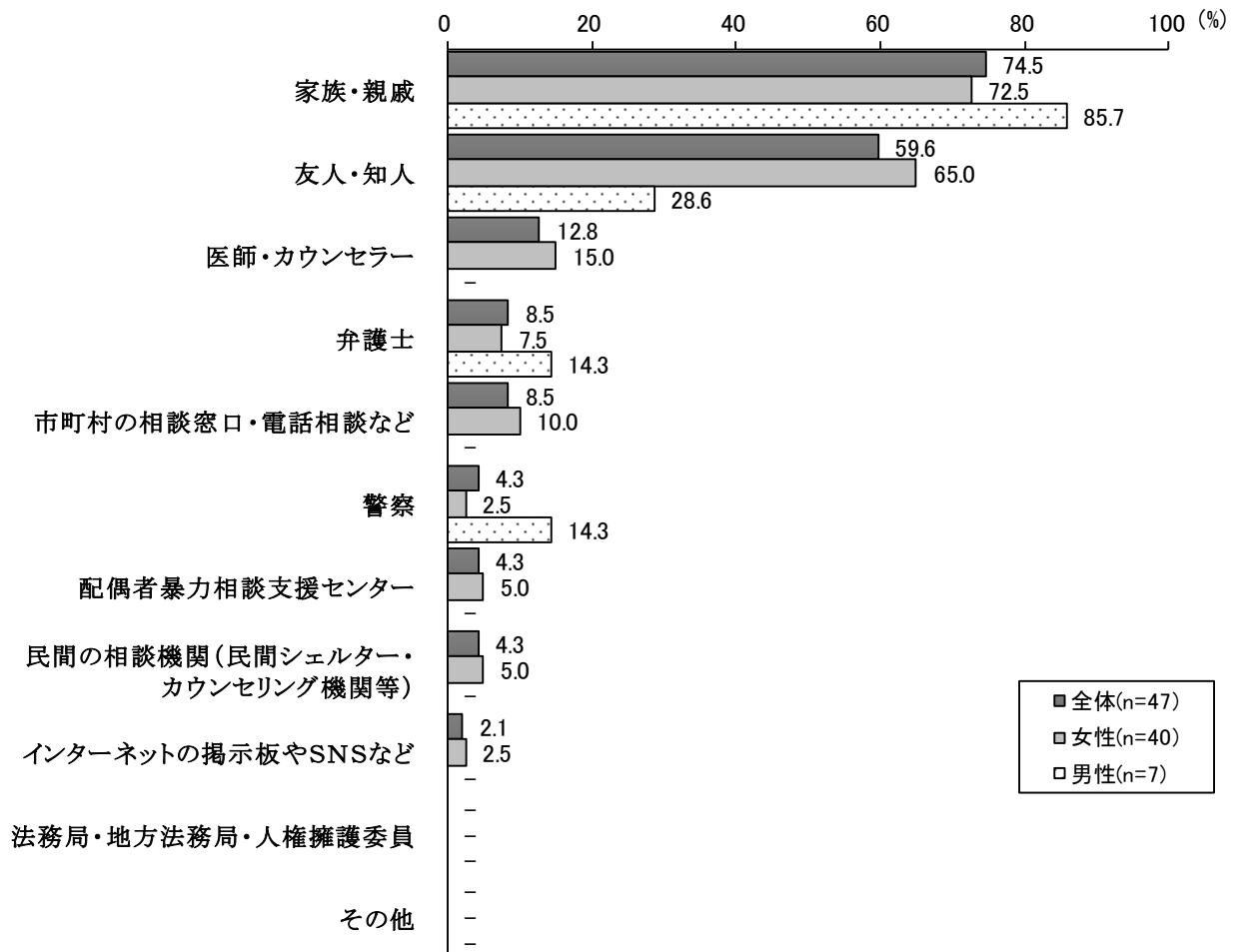
回答者数が少ないため参考値として掲載する。



(4) DV被害の相談先〔新規〕

※問9の(2)で、「相談した」と回答された方のみお答えください。

問10 あなたが、相談した人(機関又は手段)を教えてください。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

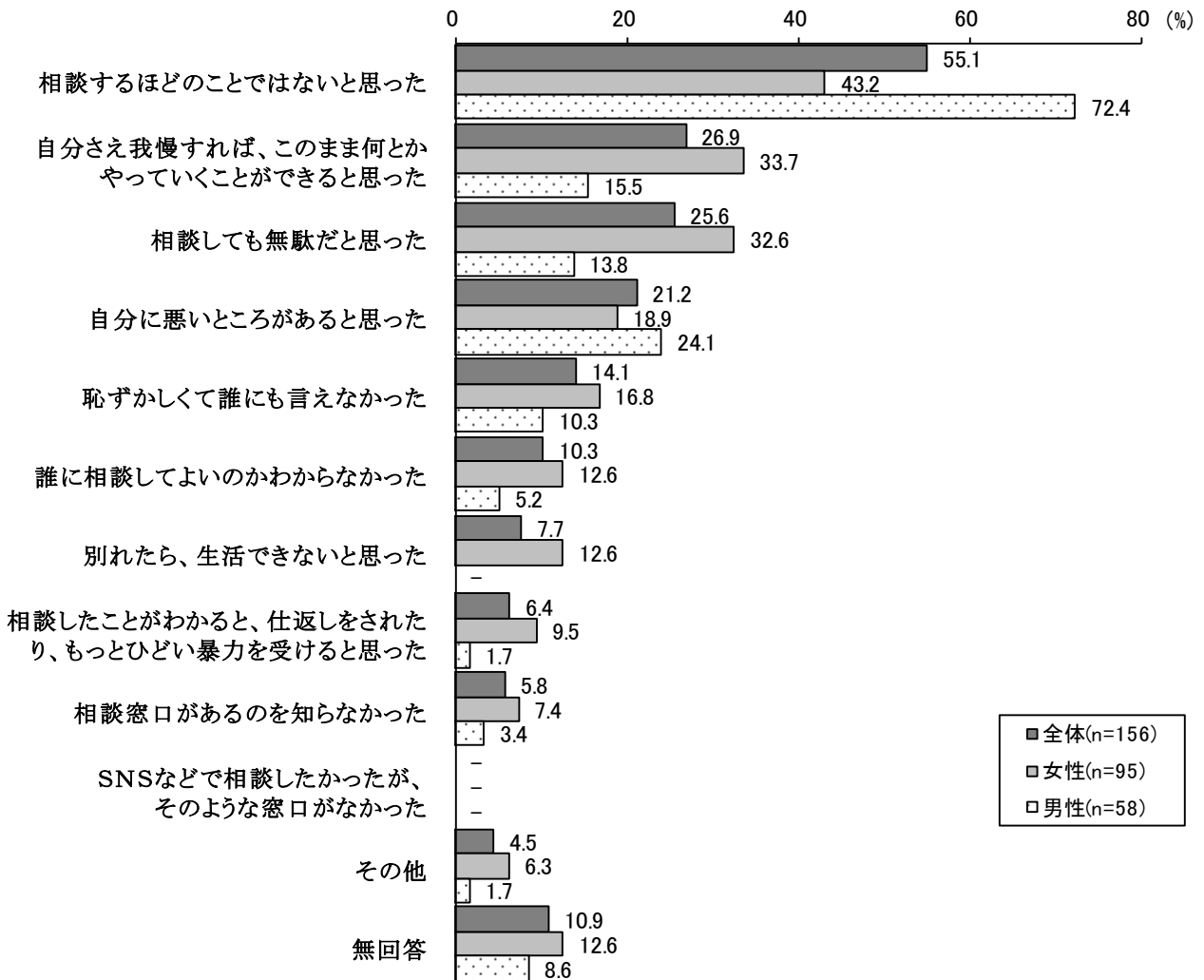


DV被害の相談先は、「家族・親戚」が74.5%で最も高く、次いで「友人・知人」が59.6%、「医師・カウンセラー」が12.8%となっている。

(5) 相談できなかった理由〔新規〕

※問9の(2)で、「相談できなかった」、又は「相談しようと思わなかった」と回答された方のみお答えください。

問11 あなたが、誰(どこ)にも相談できなかったのはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



相談できなかった理由は、「相談するほどのことではないと思った」が55.1%で最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思った」が26.9%、「相談しても無駄だと思った」が25.6%となっている。